

2019年度の主な事業報告書 (2019年4月1日～2020年3月31日)

■事業実施の概要について

・箕面の山麓保全を推進する「中間支援組織」であるNPO法人としての機能強化につとめ山麓保全アクションプログラムにもとづき、山麓部がもつ公益的な多面的機能を最大限に発揮するための活動(特に災害復興や安心・安全にかかわる活動)を精力的に行いました。

・ネットワークを活かした活動では、国・府・市などの行政と市民団体の「協働」の取り組みで明治の森箕面自然休養林管理運営協議会の例会を7回開催し、増えすぎたシカによる食害防止対策や災害に強い森づくりの活動など、安心・安全にかかわる活動に注力しました。安心・安全にかかわる活動では、箕面の山の緊急ポイントを142ヶ所に拡大し、箕面市消防本部と情報を提供し、事故や災害時の緊急対応に役立つ基盤整備を行いました。

・災害に強い森づくりの活動では、災害復興募金として、338,544円の寄付をいただき、「こもれびの森」での植樹活動を開始しました。

・中核事業である山林所有者との関わり強化では、山林整備を行うボランティア派遣に注力しました。派遣要請件数は45件(4件増)、のべ400人(104人増)のボランティアが参加しました。毎年増えている山林所有者からの要請に応えるために、人材育成のためのボランティア養成講座を行い、山林整備のサポート体制の強化を図りました。

・山林所有者へのPR・広報や個別対応につとめ、新規に「自然緑地に同意」していただいた件数は3件、新規の活動助成は3件となり、着実な成果があげられました。

・2004年に発足し、りそな銀行が受託した「公益信託」は2020年3月末をもって終了しました。箕面市から要請があり(当委員会が山林所有者や市民団体に直接助成を行う)、「公益信託」の目的である「森林の持つ多面的な機能を最大限に発揮」する事業を継続させるために、その役割を担うことにしました。

【トピックス】令和元年度自然公園関係功労者環境大臣表彰を受

環境省では、自然公園の保護とその適正な利用に関し、顕著な功績があった者を表彰し、これを讃えるために「自然公園関係功労者環境大臣表彰」を行っていますが、当委員会が環境大臣表彰を受賞し、9月28日に表彰式が行われました。

「平成14年より、ボランティア活動のプラットフォームとして、活動のコーディネートや情報発信を行うとともに、府民が箕面の森に親しむ場所・機会を提供し、安全対策にも積極的に取り組むなど中間支援組織として尽力」したことが評価されました。



環境大臣表彰を受賞

1. ネットワークを活かした「協働」の活動

《ネットワーク事業》

～情報の共有化と意見交換による新しい活動の場づくり事業～

①、明治の森箕面自然休養林管理運営協議会を通じた情報共有化と意見交換の活動

・国・府・市などの行政と市民団体が構成する協議会の事務局を担い、山間・山麓部の保全と活用を目的とした協議会例会を年7回開催しました。また、シカによる食害対策や災害に強い森づくりなどをテーマとした分科会を年4回開催しました。

協議会例会	7回開催	分科会	4回開催
-------	------	-----	------

②、災害に強い森づくりの活動

・箕面の山災害復興募金として活発な募金活動を行い、338,544円のご寄付をいただきました。

募金残高(期首 176,462円 期末361,706円)

※活動による支出 153,300円

モミジ苗代	82,500	クヌギ苗調達	5,374
防鹿ネット	32,993	チラシ代など	32,433

・住友ゴム工業(株)のCSR活動と山林所有者の協力により、クヌギの苗150本を調達し、里山管理団体や府営箕面公園などに配布した他、こもれびの森の植樹活動にも活用しました。

・台風により人工林の倒木が多発したこもれびの森で、3月15日に植樹活動を行いました。新聞に大きく取り上げられ、100人以上の申込がありました。新型コロナウイルスの影響により一般参加は中止し、スタッフのみで植樹を行いました。

イロハモミジ	53本	ブナ科の苗木	30本
--------	-----	--------	-----

・イロハモミジ苗木代は災害復興募金で支出しましたが、園芸業者の費用は箕面市が負担するなど、行政と協働で行いました。



住友ゴム工業から苗木搬出



3/15にこもれびの森で植樹

③、増えすぎたシカによる食害対策の継続

・大阪府の生物多様性センターによるシカの生息数調査のためにパトロール隊や里ぶら、清水谷を守る会による自動撮影カメラの管理やデータ送付などの支援を継続して行いました。



箕面の森の道標

④、安心・安全を目的とした「道標や案内板」整備の活動

・市民が中心となって進める明治の森箕面自然休養林管理運営協議会における道標や案内板整備の活動に協力しました。

・箕面の山の緊急ポイントを、現在の58ヶ所から、142ヶ所に拡大し箕面市消防本部と情報共有し、事故や災害時の緊急対応に役立つように基盤整備を行いました。

・破損や劣化が進んでいた国・府・市の大型看板を26ヶ所を「箕面の森の案内図」として、更新する活動に協力しました。

・あわせて142ヶ所の緊急ポイントを明示した箕面の森のハイキングマップを山なみネット/ホームページに掲載しました。



箕面の森の案内図

⑤、「ナラ枯れ」被害防止の活動

・2009年から活動を始めて、枯死木が激減するという大きな成果が得られたナラ枯れ防止グループは、不要となった粘着シートや防虫ネットを撤去する美化活動を行い、3月末に活動を終了しました。

※2019年4月～2020年3月延べ146人日の活動(前年は207人日)

⑥、山麓ファンド助成団体の報告及び交流活動

・山麓ファンド助成団体の活動報告や新規に助成採用された団体の活動紹介などの活動報告及び活動団体の交流会を行いました。

・6月29日に報告会を実施し、7団体が報告、30人が参加しました。



活動報告・交流会

2. 山林所有者との関わり強化の活動

《山林所有者関連事業》

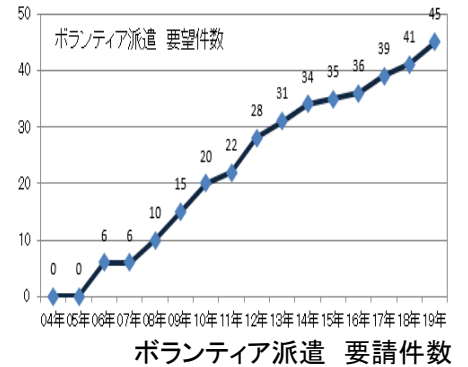
～山麓部の80%を占める民有地の課題に向き合う事業～

①、山林所有者へのPR・広報

- ・山林所有者の山林整備活動に対する公益信託「みのお山麓保全ファンド」による助成は、個別対応に注力した結果、新規「自然緑地」の同意は3件、新規助成は3件でした。
- ※2019年度(2・8月期)助成は、76件、7,428,100円(前年は70件、6,666,200円)

②、山林整備ボランティアの派遣

- ・山林所有者に代わって山の手入れを行う「ボランティア派遣」は45件(前年より4件増)の要請があり、のべ400人日(104人増)のボランティアが、主に風倒木の処理などの活動を行いました。



③、山林所有者の悩み相談

- ・2月8日に山林所有者の「悩み相談会」を行い、4件の相談を受け3件は、山林整備サポート要請をされて、助成申請をされました。
- ・山林所有者からは相続に関連しての問い合わせや寄付の要望などについての相談がありました。

3. 山で活躍するボランティアや活動団体の育成

《人材・組織育成事業》

～課題に向き合い、活動を担う人材や組織を育成する事業～

①、「みのお森の学校」による山麓保全活動の人材育成

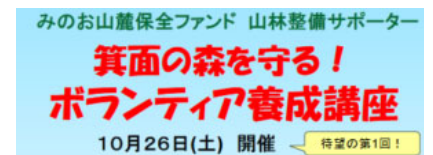
- ・人と自然の入門講座「みのお森の学校」第14期生(2018年6月修了)は14人が受講しましたが、2019年9月から始まった第15期(2020年6月修了)の受講生は13名と減少しました。
- 山での活動が期待される受講生の募集が課題となっています。



森の学校の野外実習

②、「山林整備」を担える人材の育成

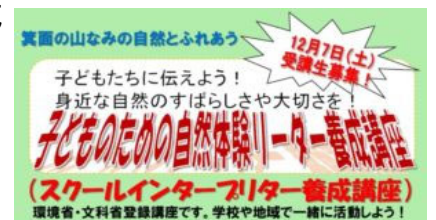
- ・増え続ける山林所有者からの山林整備要望に応じて、山林整備を担うためのボランティア育成講座を開催しました。
- ※10月26日(土)に開催し、6名が参加し修了しました。



ボランティア養成講座

③、「山麓学習(箕面の自然学習)」を担える人材の育成

- ・山麓学習を担う人材育成活動として、スクールインタープリター養成講座(1日間の講義・実習)を行いました。
- ※12月7日(土)に開催し、9名が参加し修了しました。



スクールインタープリター養成講座

④、新たな市民ボランティア組織の立ち上げ支援

- ・森の学校の修了生を中心とした「箕面の森のきこり隊」及び「箕面観光ボランティアガイド」の樹名板の設置など新規活動を支援しました。

⑤、「みのお森のセラピー」事業の再編

- ・ビジターセンターをフィールドとして、セラピー要素を組み込んだハンモック「森の癒しウォーク」の活動を始めた他、林野庁の箕面森林ふれあい推進センターの森のセラピー事業を継続しました。
- ※森の癒しウォーク参加者:47名(6回)、林野庁セラピー参加者:28名(3回)



森のセラピー、ハンモック体験

- ・事業再編を通じて、自立した団体としての活動をめざしました。

4. 事業への参加や理解と協力を得るための活動 <<PR・広報事業>>

～市民・会員・市民団体及び行政などの関係者へのPR・広報の事業～

①、ホームページ(山なみネット)による広報強化、及び情報公開

- ・自然災害やハイキング道の通行止めなどが多く、森の安全・安心情報や災害復興(年67回)を中心として、精力的に「ブログ」を更新しました。(年185回)
- あわせて、トピックスやイベントカレンダーを更新するなど、情報発信に努めました。
- ・山麓保全ファンドの助成結果やNPO山麓委員会の活動情報などの情報公開を行った他、箕面ビジターセンターのイベント情報などを発信しました。



もみじだより全世帯広報

②、全世帯向け広報

- ・箕面市全世帯向け広報紙「もみじだより」の広告掲載を年1回行い「山麓ファンド」による山林所有者や市民団体への活動助成の他、災害に強い森づくりのための募金や山林所有者の悩み相談の他、会について広報しました。



11/3山とみどりのフェスティバル

③、ニュースレター「山なみ通信」の発行

- ・広く山麓保全活動に対する情報発信を図るために、ニュースレター「みのお山なみ通信」を年4回(4・7・10・1月)発行し、配架すると共にNPO山麓委員会会員や「箕面の森の守りびと」山麓ファンドサポート会員などに郵送しました。

④、イベントの開催・出展

- ・11月3日に箕面市との共催で、箕面公園瀧安寺前広場をメイン会場として、山とみどりの市民フェスティバルを行いました。ボランティアスタッフ150人が集まり、約2000人が参加しました。
- ・11月26日～30日に、箕面文化・交流センター地下1階で明治の森箕面国定公園写真展を行い、459名(記帳者)が参加しました。
- ・12月8日には、箕面文化・交流センター8階で、災害に強い森づくりのための研究フォーラムを行い、71名が参加しました。



12/8災害に強い森づくりフォーラム

5. 「山麓ファンド」の活用と円滑な運営のための活動 <<山麓ファンド運営事業>>

～山麓ファンドの仕組みを活かすための円滑な運営などの事業～

- ・2004年に発足した「森林の持つ多面的な機能を最大限に発揮させる仕組み」である「公益信託」(りそな銀行が受託者)は、2020年3月末をもって終了しました。
- ・箕面市から当委員会に、りそな銀行に代わって、山林所有者や市民団体に直接助成を行う旨の要請があり、山麓ファンドの目的を果たすために、持続可能な範囲の中で、事業継続のために、役割を受託することにしました。

①、助成申請の受付や活動促進など

- ・「山麓ファンド」の助成申請の広報、申請書の配布と受付、申請の相談、助成申請を審査する運営委員会の資料作成などの事務を行いました。

山林所有者への活動助成	2019年(2019年2月・2019年8月)計76件、7,428,100円
市民団体への活動助成	2019年(2019年2月・2019年8月)計18件、2,476,640円
特別助成(ハード整備)	2019年8月1件、1,261,190円

- ・市民団体による活動や、山林所有者の「自然緑地」同意を前提とした助成申請による山林整備活動などが円滑に推進できるようにサポート活動を行いました。

②、助成事業の支援や進捗確認など

・「山麓ファンド」の助成を受けた団体や山林所有者の活動の進捗確認、提出された報告書のチェックなどの事務を行いました。

③、「山麓ファンド」への募金活動

- ・公益信託への募金活動は、公益信託の終了に伴い、2020年3月末で終了しました。
- ・2019年1月～2020年3月の募金額は、803,951円(市ふるさと寄附金258千円を含む)でした。
- ・箕面の山災害復興募金は338,544円であり、募金額の合計は1,142,495円でした。

公益信託	¥545,951	箕面市	¥258,000	災害復興	¥338,544	¥	1,142,495
------	----------	-----	----------	------	----------	---	-----------

6. 箕面ビジターセンター企画運営事業

《ビジターセンター事業》

- ・大阪府から受託した箕面ビジターセンターの企画運営事業(2021年9月まで)、着実に実行するとともに、明治の森箕面国定公園の拠点施設としての機能強化に努めました。
- ・課題となっていた箕面ビジターセンター入口の案内看板の設置や施設案内の三つ折りパンフレットなどを製作配付しましたが、英語版の発行などは来期に持ち越すことになりました。

①、自然解説活動

- ・土日・祝日を中心に8月・11月の平日を含めて、年174人/日の自然解説員を配置し、ビジターへのハイキング道の案内や、植物や野鳥など季節の自然情報などの発信を行いました。
- ・年41回(上期26回・下期15回)、季節の自然に親しむ観察会や自然工作教室を開催し、年間620人の参加者がありました。
- ・2020年3月度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、3回予定していた観察会や工作教室のイベントを中止しました。
- ・団体利用としては、9月に、関西学院大阪インターナショナルスクールの小学4年生40人の校外学習を行った他、箕面こどもの森学園26人の校外学習の受け入れを行いました。
- ・箕面ビジターセンターの展示室では、季節に応じた各種の「企画展示」を行いました。
- ・11月には、箕面ビジターセンターの入口が分かり難いとの声を受け長年の課題を解決するために、入口に案内看板を設置しました。
- ・地元写真家の協力を得て、年4回、自然情報誌「箕面ビジターセンターだより」を発行、配布しました。※2500部×4回=10千部別途、箕面ビジターセンターだより春の特集号(日本語版)を発行し配布しました。



箕面ビジターセンターの看板

②、企画活動

- ・年8回、「友の会」(企画会議)を開催し、自然解説業務の企画検討を行いました。箕面ビジターセンターだよりや展示室企画、自然観察会、自然解説員の配置計画の検討などを行った他、自然情報やハイキング道の通行止めなどの安心・安全情報の共有化を図りました。

③、PR・広報活動

- ・ホームページ「山なみネット」で、箕面ビジターセンターのイベント情報やブログ掲載など、自然情報や安心安全情報の発信を活発に行った他、イベント開催のチラシを作成、配付しました。
- ・ビジターセンターの利用を促進するために、新たに「箕面ビジターセンターご利用ガイド」(三つ折り)を発行しました。※3,500部



箕面ビジターセンターご利用ガイド

7. その他受託事業

《公園樹木調査事業》

- ・箕面市から公園の樹木調査事業を受託し、箕面自然調査会5名のボランティアスタッフの協力を得て、計69公園で、8,832本の樹種名と直径、枯死状況などの調査を実施しました。

期間	5/7～11/8 ※28日間	のべ人数	95人日	事業収入	469千円
公園数	69公園	調査本数	8,832本		